

今日から2学期が始まります。校内で出会う皆さんの表情には、夏休みのそれぞれの経験から得た何かがにじみ出ているように感じられます。

夏休み中には、熊本県など各地で大きな地震がありました。また、千葉県などでは豪雨もありました。今日も、石川県と富山県に大雨特別警報が発令されています。被害にあわれた方々に心からお見舞いを申し上げます。

皆さん一人ひとりにも、色々なことがあったと思いますが、まずは、2学期を始められることを、大変有り難く思います。生徒の皆さん、保護者や地域の方々、そして教職員の皆さん、本当にありがとうございます。

さて、夏休みの南高生の活動を振り返ると、全国を舞台に華々しい活躍がありました。インターハイでは、登山部女子が第6位、同じく男子は第8位になりました。全国高文祭では、将棋部が団体で予選を突破しベスト16に入りました。SSH生徒研究発表大会ではポスター発表賞を受賞しました。また、有志が出場したNikkei STEAMシンポジウム2026では、2つの部門でそれぞれ審査員特別賞、優秀賞を受賞しました。高校生ビジネスアイデアコンテストで協賛企業賞の受賞もありました。他にも、ここでは紹介しきれない多くの活躍がありました。本当に喜ばしいことです。

もちろん、今紹介した、華々しい活躍をした人たちだけが、この夏休みに頑張った訳ではありません。暑い中、一生懸命進路の実現を目指して勉強に取り組んだ人、部活動に燃えた人、探究活動を頑張った人、ボランティア活動に取り組んだ人、いろいろな事情と向き合いながら日々を過ごした人もいます。それぞれの立場で、それぞれの挑戦をした皆さんを、私は誇りに思います。

中には、その頑張りが思うような結果につながらず、くじけそうになっている人がいるかもしれません。しかし、努力の結果がいつ実を結ぶかは、分かりません。とりあえず、今日やるべきことを、着実にやりましょう。明日も、明後日も、淡々と続けましょう。

8月9日、陸上の女子100m障害で日本記録が更新され、15日にも再度更新されました。更新したのは、いずれも中島ひとみ選手、31歳。

中島選手は中学1年生の時に陸上競技を始めました。茶道部に入ろうと

思っていたそうですが、先生に誘われて陸上部に入りました。練習に打ち込み、中学2年生でハードルを始めると、すぐに頭角を現します。中学3年生で全国中学校体育大会の100メートルハードル優勝、高校でも活躍し、2年生のときにも日本一になるなど、まさに「天才少女」でした。

ところが、その後の人生は決して順風満帆ではありませんでした。

高校3年生のインターハイ予選前にストレス性胃腸炎となり、全国大会出場を逃します。大学、社会人になっても競技を続けたものの、思うような成績は出ませんでした。ケガやオーバートレーニングにも苦しみ、何度も引退を考えました。周囲からは、かつて全国制覇した選手だったことさえ忘れられ、「消えた天才」と呼ばれるような苦しい年月を長く過ごしました。

しかし、中島選手は競技を続けました。そして30歳を迎えるころから大きく飛躍します。去年は、高校2年生以来の日本一に輝くとともに、世界陸上に出場、今年6月には日本選手権で優勝し、先日、連続して日本新記録を樹立しました。9月のアジア大会での活躍が期待されます。

中島選手はおっしゃいます。「『努力は実る』とか、『夢を追い続けたら叶う』という言葉はあまり好きじゃないです。そう思っていると、苦しい現実を目の当たりにしてつらくなることもあると思います。大事にして欲しいのは、挑戦するプロセスと苦しい場面で何を選択するか。その結果、たくさんの選択肢から悩み抜いて選んだことには、何も恐れず自信を持ってほしいです。」と。

さて、2学期は、運動会、文化祭など大きな行事があります。3年生にとっては、進路決定の重要な時期でもあります。

自分自身や周囲の友達の変化に気づく感度のよいセンサーを身につけて、まずは、いのちを大切に、次に、体調を崩す人が出ないように、そして、それぞれの本番をベストコンディションで迎えられるように、気をつけましょう。

反省すべきところがあるという人は、言うまでもありません。今日からリスタートです。

少々遅れても問題はない。スタートするだけだ。必ず走れる。絶対に走りきれる。